

# 胆嚢炎・胆管肝炎・総胆管閉塞とは

胆嚢は肝臓で作られた胆汁(脂肪やアミノ酸の消化吸収に不可欠)を一時的に溜め、必要な時に十二指腸に胆汁を分泌する働きがあります。

## <胆嚢炎>

わんちゃんでは胃腸炎、膵炎、肝炎などの後に胆嚢に細菌が及ぶことで発症するケースが多いです。猫ちゃんの場合は胆嚢そのものが炎症するよりも、胆管と胆管周辺の肝細胞が炎症する胆管炎・胆管肝炎が多くみられます。

## <胆管炎・胆管肝炎>

化膿性と非化膿性の2種類があります。化膿性は消化管からの上行感染によるものが多く、非化膿性は詳しく原因が解明されていませんが、炎症性腸疾患や膵炎が原因ではないかと考えられています。

※猫ちゃんでは**三臓器炎**といって「炎症性腸疾患(IBD)」「胆管肝炎」「膵炎」が同時に起こることがあります。

## <総胆管閉塞>

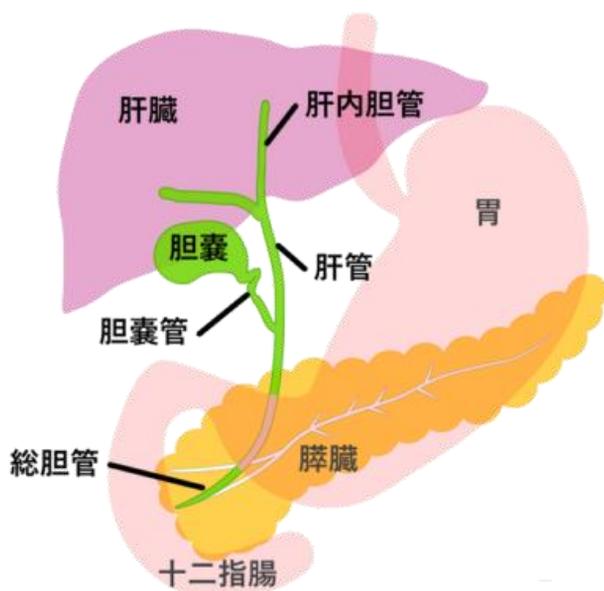
総胆管は非常に細い管(わんちゃんでは3mm以下、猫ちゃんなら4mm以下)なので、胆石や粘液物質は容易に閉塞を引き起こします。また膵臓の炎症によって外から圧迫されることによっても閉塞が起きます。完全な閉塞が無くてもうっ滞を起こすことで、胆嚢破裂の危険性があります。

### <<症状>>

- 嘔吐
- よだれが多い
- 下痢
- 食欲廃絶
- 黄疸(総胆管閉塞を併発した場合など)

### <<診断>>

血液検査で肝臓や胆嚢に関わる数値を確認します。エコー検査で胆嚢を観察します。エコーでは胆嚢壁が分厚く見えると、炎症が起こっている可能性がありますと判断されます。検査結果や本人の症状から総合的に判断します。



### <<治療>>

#### ◆ 内科治療

抗菌剤を使用して細菌に対して治療します。その他嘔吐や下痢への対症療法として制吐剤や胃腸薬を使用します。炎症を抑える目的でステロイドを使用することもあります。嘔吐や下痢、食欲低下が続くと体が脱水状態になってしまうため数日点滴が必要になります。

#### ◆ 外科手術

胆嚢破裂や総胆管閉塞の疑いがある場合、開腹手術で胆嚢を摘出する場合があります。しかし手術の難易度やリスクも大きく、手術をするかどうかは慎重な判断が必要になります。胆嚢破裂がある場合はショック状態(血圧、体温、心拍などが保てない危険な状態)にあたり、一般状態が非常に悪くなっているため数日点滴などで治療し、状態を改善してから臨むこともあります。